

第2回 ミドルステージ研修

令和6年11月6日（水）

講演「つなぐ先にみえるもの：自分の苦手は誰かの得意 自分の苦手は誰でも苦手」

帝塚山大学 教授 松浦 真理氏

1. グループ討議

- ① 第1回目の研修でミドルリーダーとはどのような人かについて協議した後、各園で取り組んだ実践や、気づき、悩み、課題などを共有し、参加者が考えるミドルリーダーに近づくためのヒントや解決策を見出していく。前回と同じグループで行うことで、様々な考えや意見を交わし、話し合いを深められるようにする。
- ② 討議の記録用紙を他グループと交換し、多角的な視点からの意見を知ることや、参加者の意見を聞く機会となるようにする。（意見は付箋に記入し記録用紙に貼る。）
- ③ 戻ってきた記録用紙の内容を共有し、新たな気づきを得たり、解決策を探ったりする。

一人一人がミドルリーダーとして役割を果たすために、小規模園、大規模園など、それぞれの悩みや気づきを知ることができた。共通するものもあり、じっくりと討議する機会となった。

2. 松浦先生による講演

○取組を継続する中で、ミドルリーダーとしての役割をさらに深めたり広げたりしていくために、参加者同士の実践事例から学ぶ。

【事前アンケートの実践事例より】（○…実践したこと ◇…課題）

①調整

- 保育にかかわる人たちそれぞれの得意なところを見つけ仕事を割り振る。
 - ⇒特別支援教諭：支援に必要なグッズを作ってもらう。
 - ⇒看護師：衛生環境の整備と子どもの怪我について助言 等
- 手伝ってほしい事や、保育の準備でしなければいけない事を、朝礼などで伝え、手の空いている職員が率先して行えるようにする。
- ◇一方的な考え方になっていないか考えてしまう。



気づきは
前進の一步

【松浦先生より】

それぞれの得意分野を見極めて役割を分担し、前もって伝えることで見通しをもってみんなが動けるようになっている。相手の立場に立ち先生方に助言していく事で、周囲の先生方を巻き込んでいける。伝え方の難しさに気づき、一方的になっていないかを振り返ることが大切である。

②調整・子ども理解

- 特別支援員との関係構築に努めた。⇒これまで以上に情報共有を密にする。自分の経験や研修で得た知識を支援員に伝え、一緒に考えていくようになった。
- 意思疎通をして対応することが**習慣化**した。⇒保護者の安心感が増したように感じる。
- ◇**話す時間の確保が難しい**。報告・連絡・様子の共有などになりがち。

短い時間の
習慣化

【松浦先生より】

ミドルリーダーが第三者として入る事で、良い関係づくりにつながっている。話す時間を長くとする事は不可能に近いので、短いコンタクトをたくさん取る。「昨日の続き」が大切である。どうしても必要な時は連絡帳などの方法もあるが、日々の短いコンタクトを習慣化し継続することが大切。

③省察

- 自分が自信のあることや成功したことに基づき保育を計画していたが、新しいことを発信したり挑戦したりした。
- 立場や年齢に関係なく得意分野を生かし、発表会を作り上げていく事ができるようになった。
- ◇「甘えているのでは?」「頼りすぎているのでは」と考えてしまう。

ミドルリーダーが
キーパーソン

【松浦先生より】

チャレンジする姿を見て周りの人は影響を受け「振られたから仕方なく」というのではなく、「一緒にやっぺいこう」という気持ちになっている。

○事前アンケートから悩みや質問を抜粋し、助言をいただく。

【参加者からの質問】

後輩に気持ちよく受け取ってもらえるアドバイスの伝え方は?

【松浦先生より】

日頃から「この先輩と一緒にいてうれしい、楽しい」と思ってもらえるような雰囲気づくりを行い、相手の思いを聞き出す。

職員の考え方や思いが分かれた時に、つなぐことが難しい。

ミドルリーダーが一人で何とかしようとするよりも、なぜそのように考えたり行動したりするのかという背景の部分をみんなで話し合ってみるとよいかもしれない。その際にみんなの方向をできるだけ同じにしたい場合は、園の理念や指針・要領の考え方を確認するとよい。

保育で最も大切なことは「きく」こと。
相手の気持ちを引き出す聞き方を心がける。

★聞く時の大切なポイント

- ・先入観を持たず、素直に聞く。
- ・聞いた話をうのみにしない。
- ・聞いた話について自分の考えを持つ。
- ・自分の思いを伝えることより、まずは「聞く」こと優先する。
- ・質問は、相手が自分で判断できるような問いかけ方をする。

【汐見稔幸・新保庄三編著『保育者のためのコミュニケーション・トレーニング BOOK』を参考】

★保育者をつなぎ、保育をつなぎながら、さらにミドルリーダーとしての役割を広げていく。

作成者 幼児教育アドバイザー 奥浦 和美